

令和 6 年度 学校自己評価システムシート（県立所沢中央高等学校）

目指す学校像	「授業」「学校行事」「部活動」をとおして人間力を高め、夢を実現させる学校
--------	--------------------------------------

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1. 規律ある態度と主体的に行動する姿勢を養う 2. 自ら学び考える環境を整え、希望の進路の実現を図る 3. 地域との連携をとおし、社会に貢献する人材を育成する
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

出席者	学校関係者	8名
	生徒	12名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標						年 度 評 価（令和7年1月30日現在）		実 施 日 令和7年2月1日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	○『挨拶・時間・規律』を基本方針とし、全職員の共通認識・共通理解・共通実践を心がけているが、徹底すべき箇所もあり、継続した努力が求められる。	○基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、規範意識の向上とマナーアップを意識させる。	○各学年の生徒指導部を中心に学年内および学年間での情報共有を密にする。全教職員で統一した生徒指導を組織的に行っていく。 ○必要に応じて外部機関との連携を図り、迅速かつ的確に取り組む。	○現代の社会状況に応じて指導内容を適宜見直し、全教職員で共通理解を図り進められたか。 ○地域の方々等の意見に真摯且つ適切な対応を心掛け、双方で良好な関係のもと指導できたか。	○特に制服のジェンダー対応について議論を重ね、来年度より自由に制服が選べる生徒心得とした。 ○何件かの苦情が寄せられたが管理職の指導助言のもと、適切に対応することができた。	A	○校則の点検・見直しについて議論を始める局面に至ったと感じる。 ○苦情対応については引き続き組織的な対応に努めてゆく。	○地域との繋がり、公民館の手伝いなど、地域の人に評価されており、感謝されている。バス停での整列、自転車マナーなども好印象。 ○（部活活性化のため）所沢市単位などで高校を集め、定期的な対抗戦をしたらよいのでは。高体連レベルでもなく、練習試合でもない、その間のレベルで1つ場があると良い。試合に勝つことで成功体験になり、地元の中で切磋琢磨する機会にもなる。 ○制服規定について検討する際、生徒を参加させ決めたいほうが良い。主体性の育成に繋がる。 ○懇話会の中で、学校の強みの1つとして「生徒と先生の距離が近い」という意見があった。制服、服装についての校則、ルールなども、お互いによく話し合うことで、お互いに納得できるようルールを運用していくと良い。	
	○生徒会本部役員と各委員会が連携し、行事運営及び情報発信が活発に行われている。行事を通じて学校全体をさらに活性化させたい。 ○2年次以降も継続して部活動に加入する生徒の数を増やしたい。 ○トイレが新しくなった事に伴い、きれいに使用する意識を高める。	○全校生徒の行事に対する積極性を高める。 ○部活動への意識・意欲を向上させる。 ○日常的にトイレがきれいな状態を保つ	○生徒会本部と各委員会が円滑に連携して情報を発信する。 ○学校全体で部活動の継続と部員増加を図る。 ○トイレ清掃週間を設け、より多くの生徒がトイレ清掃に関りを持ちトイレをきれいにしようとする意識を持たせる。	○全校規模で生徒会や各委員会の情報を共有できたか。 ○部活動の広報や運営に関して学校全体が協働したか。 ○トイレがきれいに保たれているか。	○各実行委員が積極的に企画・運営に参加するようになった。 ○2年次での部活継続率はR5年度で68%、R6年度では55%であった。 ○ほぼ全員の生徒がトイレ掃除を経験することにより、日常からきれいに使う意識が高まった。		A		○生徒会行事および部活動において引き続き学校全体で取り組んでいくよう努める。 ○職員へのアンケート結果からも、トイレ清掃に関して次年度も継続して行っていきたい。
2	○学習環境を整える前提として、十分な授業時間を確保したい。 ○自己の進路について早期から意識させる取り組みを行っているが、主体的に進路を決定したり、その進路の実現のために努力し、行動したりする力が不十分である。	○行事を充実させるとともに授業時間を十分に確保する。 ○保護者や外部の業者など多方面と連携し積極性・主体性を促す進路活動を実施し、生徒の進路意識をより一層高め、実際に行動させる。	○授業と行事についてバランスの取れた年間行事計画を作成し、学期ごとの実情に合わせて日程の調整を行う。 ①KGS や実力テストなどを活用した学習支援を通して、基礎学力の向上を図る。また、タブレット端末を活用した指導なども充実させる。 ②分野別、試験別の説明会や試験対策の支援を分野の現状や本校生徒のニーズに応じた内容で力強く行う。また、進路指導ボランティアも活用していく。 ③保護者への情報発信をHP や進路だよりを通して行う。	○各教科が授業時間の観点から充実した授業が行えたか。 ①学習指導を継続して行えたか。また、実力テストの結果をそれ以降の指導や進路実現に反映できたか。 ②生徒のニーズを把握し個別最適な支援ができたか。また、進路指導ボランティアを効果的に活用できたか。 ③保護者への情報発信が適度に行えたか。	○学期毎に曜日調整や授業時限調整を行い、各教科の授業時間数の平均化を行った。 ○学習習慣の確立のためにKGSをはじめとした支援を継続できた。 ○面談等により生徒の希望を把握し、小論文、面接指導を行った。 ○進路分野別、試験種別に適切なタイミングで説明会を行った。	A	○授業時間確保のため、行事の精選も合わせて行う必要がある。 ○推薦受験をする生徒が多い本校では、今後も、入試の変化に柔軟に対応しながら、面接指導や小論文指導の継続が必要である。生成AI の活用も今後の課題である。	○進路指導に関して、理想を言えば、卒業生等の進路調査ができると良い。看護系等進路別に、次のステージでどう生活しているかを把握できると良い。卒業後の進路フォローは難しく、実現するための負担は大きい。例えば外部委託で行う方法等検討してはどうか。目の前の生徒に対して、根拠のある進路指導をするためにはデータが大事と思われる。推薦で進学する生徒も多い学校なので、進学先の情報も大事である。また就職先での勤務状況が分かれば、進路指導上重要な情報となる。 ○卒業生が今何をしているかわかるデータバンクのようなものがあれば、進路講演会などで講師を呼ぶのに役立つ。毎年リスト作成を続けられれば、若い世代と上の世代が繋がるきっかけにもなる。学校独自の人材バンク作成の負担は大きい。地域別に連携して卒業生データバンクを作成する等検討しても良い。	
	○美化委員会を中心とする活動は主体的かつ計画的に運営されている。今後も校内の美化・緑化を中心に生徒が主体性をもって生活環境を整備する意識を向上させていく。 ○授業での図書館活用は、活発に行われている。これに応える資料の準備と生徒の読書意欲の向上、利用者の増加を目指し、電子図書館サービスの導入と蔵書づくりを進める。	○感染防止対策等衛生面を考慮した上での美化活動を生徒に意識づける。 ○資料の充実をはかり、読書意欲向上と学習に役立つ環境を整える。	○除草作業を含めた年2回の春秋の植栽活動を、美化委員会を中心に計画的に実施する。 ○美化委員会を通して、ごみの分別、食べ飲み歩き禁止をポスター掲示等で呼びかけていく。 ○利用者の声を反映させた適切な選書と除籍を行う。電子図書サービスの導入を行う。	○効率のよい植栽活動のために適切な準備をし、積極的に参加できたか。 ○感染防止等のために、ごみの分別処理等美化活動が適切に運営できたか。 ○利用者・授業者の希望に応える資料の用意や選書ができたか。	○特に秋の植栽は、花抜きから行い、上手に植え替えることができた。しかし、除草作業や水まきに参加する生徒の活動は少なかった。 ○生徒の利用冊数は、12月までで、約3,200冊だった。		A		○花壇の水まきや除草作業に、もう少し生徒が主体的に参加する工夫をしていきたい。 ○引き続き生徒・教職員のリクエストなどを反映させた選書を行っていく。
3	○学校説明会やホームページを通して、本校の特徴や行事の魅力を伝えたい。 ○地域、保護者の評価は高く、強く支持されている。要望に応えながら、地域やPTA と連携しながら活動していきたい。	○本校の教育活動などについての発信をする。 ○社会のニーズに合わせて、保護者や地域に情報を伝達していく。	① 教職員全体で情報発信するしくみを発展させる。 ②インターネットやメールを活用し、保護者や地域に必要な情報を発信する。	①年間を通じて、ホームページに新情報をアップできたか。 ②社会のニーズに応じた情報伝達ができたか。	○教職員（部活、分掌、学年等）からの情報発信は昨年度並みであるが、業務の分担はできている。 ○PTA行事の申し込みにインターネットを活用した。「PTA広報誌」を年2回発行した。	A	○多忙化の中での効果的・効率的な情報発信の方法、業務の縮減のバランスを検討する。 ○安心、安全メールによる発信を進め、保護者への学校行事についての情報を伝達する。	○メールによる保護者宛ての情報発信で、同一内容が複数回送信される等誤信により分かり辛かった。 ○吹奏楽部が地域での活動に取り組んでいるので、地域での活動を一括してコーディネートする「地域連携活動部」のような部活があっても良い。あるいは生徒会がその役割を担うのも良い。	